

〈解答〉

- ① 1 ア
 2 (1) イ (2) オ (3) エ (4) シルクロード〔絹の道〕
 3 (1) エ (2) ア (3) C

配点 ① 2(2), (4)は各2点, 他は各1点 10点満点

〈解説〉

- ① 1 2図は、象形文字の一つである神聖文字（ヒエログリフ）で、アのナイル川流域に栄えたエジプト文明で発明された。イはチグリス川とユーフラテス川流域のメソポタミア文明で、くさび形文字が使われていた。ウはインダス川流域のインダス文明で、インダス文字が使われていた。エは黄河、長江流域の中国文明で、甲骨文字が使われていた。
- 2(1) 隋が中国を統一したのは589年である。日本は600年に隋に使者を送ったが、日本書紀には書かれていない。日本書紀には607年に小野妹子を送ったことを記しているのが最初である。ア大伴家持は、奈良時代の歌人で、「万葉集」に多くの歌がおさめられている。ウ紀貫之は、平安時代初期の歌人で、「古今和歌集」を編集し、「土佐日記」を書いた。エ菅原道真は、894年に遣唐使に任命されたが、派遣の停止を提案し認められた。学問に優れ、右大臣になったが、藤原時平の密告で、大宰府に左遷された。
- (2) 663年の白村江の戦いで新羅と唐の連合軍に敗れた後、中大兄皇子は、新羅や唐の攻撃に備えて、山城や水城を築き、防人と呼ばれる兵士を九州の北部に配置した。
- (3) エの弥勒菩薩像は、6世紀中ごろから7世紀中ごろにかけて、都のあった飛鳥地方を中心に栄えた飛鳥文化のころの作品である。
- (4) シルクロード〔絹の道〕は、紀元前2世紀ごろに通じた、中国とヨーロッパを結ぶ交通路で、中国の絹がこの道を通してローマ帝国などに運ばれたことからこの名がついた。
- 3(1) アは天武天皇、イは聖徳太子、ウは藤原道長、エは桓武天皇が行ったことである。
- (2) 蘇我氏は飛鳥地方に本拠を置いた豪族で、天皇家と婚姻を結び、渡来人の力をかりて勢力をのばした。587年、蘇我馬子が物部守屋を滅ぼしてから政治の実権をにぎり、馬子、蝦夷、入鹿の3代にわたって権力をふるった。イの物部氏は、蘇我氏と対立した豪族である。ウの中臣氏は、大化の改新で中大兄皇子に協力した中臣鎌足（のちの工藤原氏）が有名である。
- (3) Aは平安時代で11世紀前半、Bは飛鳥時代で7世紀末ごろ、Cは平安時代で8世紀後半～9世紀初め、Dは飛鳥時代で6世紀末～7世紀前半である。D→B→C→Aの順になる。